

磐梯町小・中学校の保護者の皆様へ

すべての子どもは、大人になろうとしています。
大人になるということは、大人と同じことができるということです。
歩くこと、話すこと、食べること、そして仕事をする事。
子どもは全神経を集中して見て、真似ることで習得していくのです。
子どもたちの話す言葉（方言）に独特のなまりがあるのは、そのためです。
だから、乳幼児期や少年期にまねる能力が優れているのです。
大人からみて、幼子にはできるはずがないと思うことを「自分でやりたい」と言います。
少し大きくなると「カッコいいな」と思ったタレントやアスリートの真似を始めます。
まねる → まねぶ → まなぶ と変化して、「学ぶ」という言葉ができました。

台所に立つことで言うと、一番の適齢期は5歳です。
その適齢期には、味覚が形成されています。
日本人は、この時期に獲得した味覚を「おふくろの味」と言っています。
それが親子の絆を強くすることに効果的です。
全国で起きている、子どもを取り巻く環境で起きる悲しい事件や事象を減らすのに、
「家族団らんの食事」が大きな役割を果たすことを
脳科学者や心理学者や教育者が言っています。

「家族団らんの食事」は毎日でなくても効果があります。
その食事内容は、手作りの方が効果的です。
楽しそうに台所に立っている親の姿が、子どもの眼に映っているからです。
おいしい食事を作っている親っていいな、
と覚えることが子どもの健全育成につながるのです。

子どもが作る「弁当の日」は、年に数回で効果があることを、
「弁当の日」の経験者（当時小学生・中学生）が20年後に示してくれています。
そして、彼らは幼いわが子を台所に立たせているのです。
どうぞ、台所に立つわが子を温かく見守ってください。
その成長を喜んでやってください。

10月17日 午前4時からのNHK ラジオ深夜便に出演します。
興味がある方、早起きの方は聞いてみてください。

子どもが作る弁当の日提唱者 竹下和男